

決議第1号

神奈川県議会議員足柄下選挙区に関する要望決議

湯河原町議会会議規則第14条の規定により、別紙のとおり決議案を提出します。

令和3年11月30日提出

湯河原町議会議長 村 瀬 公 大 様

提出者	湯河原町議会議員	山 本 俊 明
賛成者	同	土 屋 由 希 子
	同	松 井 一 寿
	同	露 木 寿 雄
	同	室 伏 重 孝
	同	室 伏 寿 美 夫
	同	土 屋 誠 一

(提案理由)

現在、神奈川県議会では議員定数等検討委員会を設置し、次期神奈川県議会議員選挙の際の議員定数や選挙区の見直しの検討を行っています。

一部報道によると、見直しの対象として小田原市選挙区と足柄下選挙区の強制合区の懸念もあり、地元議会としては、地域住民の声を直接県に伝えるためにも安易に強制合区を行わず、人口割のみにとらわれず、地域の特性も考慮した柔軟な議論を展開することを要望するため、本決議案を提出するものであります。

神奈川県議会議員足柄下選挙区に関する要望決議

昨今の人口減少社会は、豊かな日本の根幹を揺るがす問題です。地方創生を合言葉に様々な地域や地方の在り方を見つめ直し、行政サービスの最適化、広域化を図るとともに地域の魅力を掘り起こす事が必要とされています。神奈川県は、巨大な政令市が3つあり、県内人口の65%を占め、全国の中でも人口格差が著しく進んでいます。必然的に、県議会の議員定数も政令3市に偏る傾向となり、従来の人口割だけの議員定数配分では神奈川県は、直面する課題「人口減少」、「地方創生」には立ち向かえないと考えます。

元総務大臣の増田寛也著「地方消滅」によれば、人口減少問題で一番大事な「出生率」は都心に近いほど低い傾向にあり、「豊かな地方」ほど高いとされています。東京都の1.15に対し、神奈川県では開成町が1.54と一番高いですが、県内でも魅力のある地域にもかかわらず、箱根町など出生率が「1.00」を下回る地域が出てきています。県議会が、地域住民からの声を吸い上げるため、県議会議員を配置し続け、より一層「声を大」にしていかなければ手遅れとなり消滅都市になりかねないと危惧しております。

特に足柄下郡エリアは、年間2,500万人もの観光客を迎え入れる国際的観光地であり、交流人口も念頭に入れるべきと考えます。

また、県境に位置する本町においては、県境河川である千歳川の維持管理や伊豆湘南道路の構想に向けた県を跨いだ政策も大変重要なものであります。

さらに、公職選挙法第271条の特例選挙区の制度も勘案すべきであります。これは同法第15条第2項前段の強制合区の規定にかかわらず、当該地域をもって1選挙区を設ける制度であります。平成30年、兵庫県相生市は県議配置基数が0.474で0.5を僅かに下回る程度とみなし地方創生の観点から強制合区対象を外した経緯があります。足柄下郡は0.4711ということであり、前例を鑑みると強制合区と判断するには時期尚早であると考えます。

今回の検討委員会ではこれらの事を踏まえ、「ただ人口で当てつける区割り、強制合区」ではなく「未来の神奈川県の展望や施策」「中長期的な視点」を念頭に抜本的な議論が必要と考えます。

以上のことから議員定数等検討委員会の方々へ意見を申し上げさせていただきます。

1. 神奈川県の事情を鑑み、地方創生の観点から「足柄下選挙区」の強制合区は時期尚早であります。
2. 豊かな神奈川県を育むためにも、県議会、県議会議員の「県民の声を吸い上げる」重要性を意識し、人口割のみにとらわれず、地域の特性も考慮した柔軟な議論を展開することを要望します。

令和3年11月30日

神奈川県湯河原町議会議員 村瀬 公大

【提出先】

神奈川県議会議員 小島 健一

神奈川県議会議員定数等検討委員会委員長 桐生秀昭